

高崎町文化財調査報告書

第 6 集

町内遺跡試掘調査
城の岡遺跡

1995

宮崎県北諸県郡高崎町教育委員会

序

高崎町は、宮崎県の南西部にあり、緑豊かな町です。町内には、宮崎県指定の「高崎町古墳」をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地があります。

近年、町内でも開発事業などがおこなわれていますが、これらの中には埋蔵文化財に影響を与えるものもあります。高崎町の歴史を語るこれらの埋蔵文化財を後世に残し、郷土の歴史を学ぶための資料とすることは、私たちの責任です。

今回、開発事業と埋蔵文化財保護行政の調整を円滑に行うため、町内で開発事業が予定されている地域の試掘調査を行いました。今後とも町内の埋蔵文化財の状態を明らかにし、歴史資料として整備するとともに、開発事業との調整を行ってまいります。

今回の調査が実施できましたのも、土地所有者の皆様をはじめ多くの方々のご理解とご協力をいただいた結果であると感謝いたしております。

平成7年3月

高崎町教育委員会
教育長 岩切光明

例 言

- 1 書は、高崎町教育委員会が平成6年度に、文化庁及び宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡試掘調査の概要報告書である。
- 2 調査は、高崎町教育委員会が主体となって実施した。
調査体制は、次のとおりである。
調査主体 高崎町教育委員会
教 育 長 岩 切 光 明
社会教育課長 名頭園 政 利
同 課 長 補 佐 志 戸 健
同 主 査 岩 下 待 子 (庶務担当)
同 主 事 山 峯 薫 (調査担当)
- 3 本書で使用した北は座標北である。
- 4 本書の執筆・編集は、山峯が行った。
- 5 調査にあたっては、木下地区振興会並びに木下自治公民館の協力を得た。
- 6 出土遺物や調査の資料は、高崎町教育委員会で保管する。

目 次

1 高崎町の概要	1
2 城の岡遺跡	2
3 報告書抄録	15

挿 図 目 次

第1図 山城・砦等分布図	1
第2図 縄張図及びトレンチ配置図 (S=1/2, 500)	3
第3図 層序図 (S=1/20)	5

図 版 目 次

図版Ⅰ 城の岡遺跡遠景	7
図版Ⅱ 通路現況	8
図版Ⅲ 1 トレンチ	9
図版Ⅳ A-1 トレンチ・A-2 トレンチ	10
図版Ⅴ A地区調査状況・A-1 トレンチ出土土師器	11
図版Ⅵ A-4 トレンチ層序・A-4 トレンチ出土遺物	12
図版Ⅶ すかしの城・木場城遠望	13

1 高崎町の概要

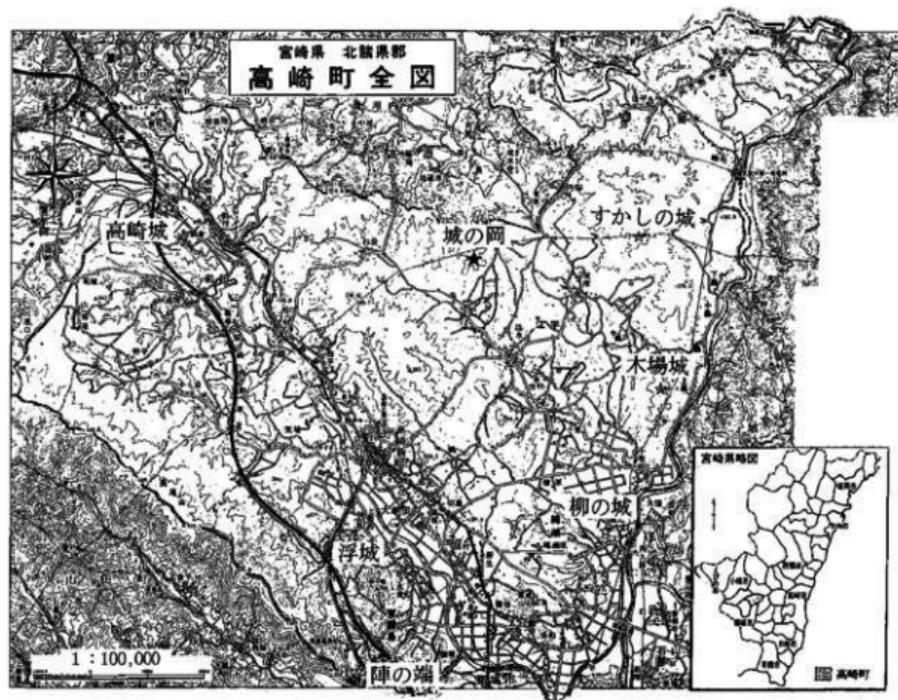
高崎町は宮崎県南西部の都城盆地北西部にある。標高300m程度の山地や台地が面積の半数以上を占め、水田は標高120m～160mの位置に広がる。

平成2年度と平成3年度に実施した遺跡分布調査の結果、縄文時代から中世にかけての多数の埋蔵文化財包蔵地が確認された。

代表的な遺跡は、縄文時代後期の集落跡が調査された栢木（栢木）遺跡・北迫遺跡（大字大牟田）、弥生時代中期の石蓋土墳墓が調査された朴木遺跡（大字江平）、同後期の日向型堅穴住居跡が調査された上示野原遺跡（大字大牟田）、古墳時代の遺跡では塚原古墳群（大字江平）や地下式横穴墓、平安時代では越州青磁碗が出土した政所第2遺跡がある。中世では、町内全城に遺物の散布が認められ、高崎城をはじめとして多くの山城や砦が築かれる。（第1図）

〈参考文献〉

高崎町史編纂委員会 『高崎町史』 1990



第1図 山城・砦跡分布図

2 城の岡遺跡

(1) 遺跡の概要

城の岡遺跡は、高崎町の北部大字江平にある。遺跡の北は、高原町と接している。標高275mの山地で、地元では古くから「ジョウオカ（城岡）」と呼ばれ城跡として認識されていた。また、B地区北西の斜面から谷にかけては、「カワズガヤマ」と呼ばれている。

現状は、数カ所の曲輪や堅堀などが確認され、山城としての保存状態は良好である。また、主要部から僅かに下ったところに湧き水も出ている。主要部からは、中世の山城跡のすかしの城・木場城が一望できる。

(2) 調査に至る経緯

平成6年10月に地元の木下自治公民館より、当該地を山城を基本とした公園として整備したい旨の申し出があった。これを受けて高崎町教育委員会で平成6年11月16日に現地の確認と分布調査を実施した。その結果、曲輪や堅堀などが確認され概略の縄張り図を作成した。（第2図）その後、整備計画作成のため地下遺構の残存状態を把握する必要性があり、試掘調査を行った。調査は平成7年3月13日から3月29日の期間で実施した。

(3) 調査の概要

調査は、確認された平坦地に幅1m～2mのトレンチを設定し、人力により発掘を行った。

① 1地区

山城の主要部から東へ派生する尾根の先端部にあたる。山城の範囲に入るかどうか疑問のもたれる位置にあたる。

トレンチの規模は、2m×24mである。層序は、表土・降下軽石層・茶褐色土・橙褐色火灰・暗褐色土・淡灰青色土である。遺構・出土遺物はない。

② A地区

山城の主要部（標高251.5m）に1～4トレンチを設定した。1～3トレンチでは、表土の下は砂岩の基盤になっている。

1トレンチ北端で基盤の砂岩表面に、火を受けたあとが確認され炭化物も散布している。また、基盤砂岩に接するような状態で土師器坏の底部3個体分が出土した。

2・3トレンチでは、遺構・遺物はない。

4トレンチは、通路と思われる位置にあたる。通路は基盤の砂岩まで掘り下げ、その土をそばに盛っている。須恵器甕片と磨石が出土した。

③ B地区

主要部から南西に派生する尾根にあたる。幅12m～13m、長さ70m程度の細長い平坦地である。

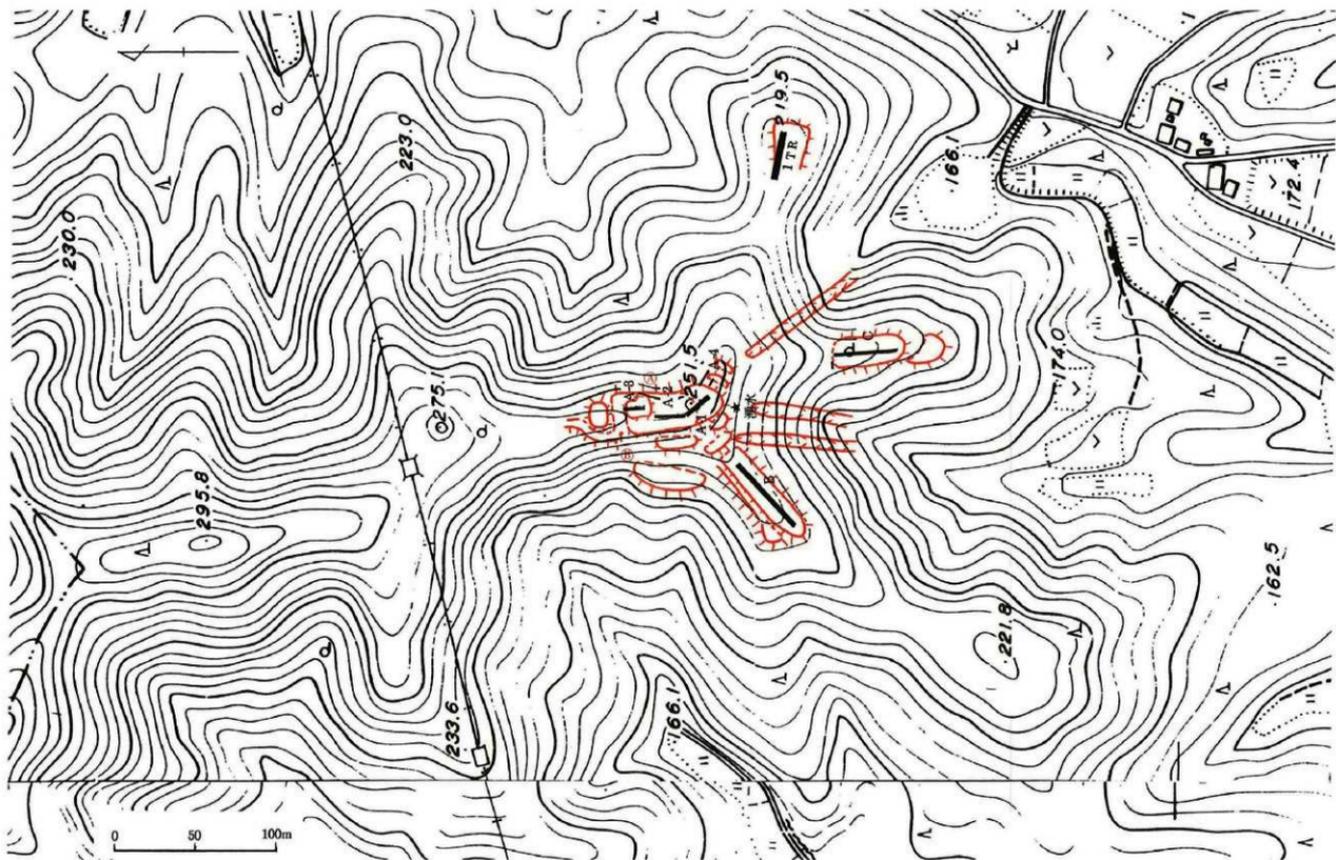
幅2mのトレンチを64mにわたって調査したが、遺構は確認されなかった。表土の下は基盤砂岩が風化している。遺物は、中世の陶器が出土した。

④ C地区

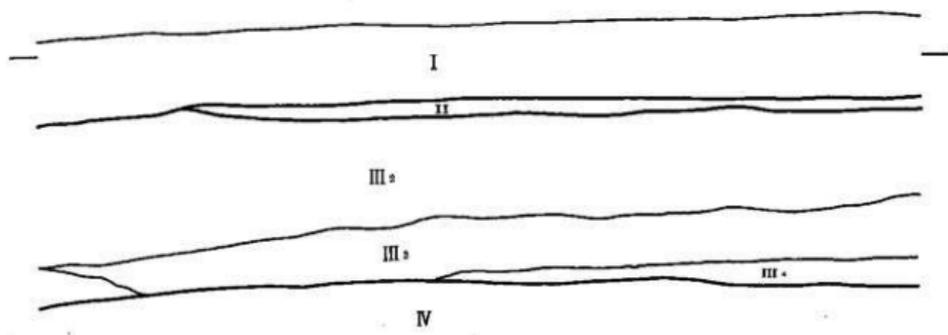
主要部から南へ派生する尾根にあたる。幅10m～7m、長さ50m程度の細長い平坦地である。幅2mのトレンチを40mにわたって調査したが、表土の下は基盤砂岩または、これの風化層で遺構は検出されなかった。

(4) 調査の結果

当該地は、自然地形を利用して曲輪や堀を構築している。しかし、表土の直下が基盤の砂岩層であるため、地下遺構の確認はできなかった。また、建物も不明である。

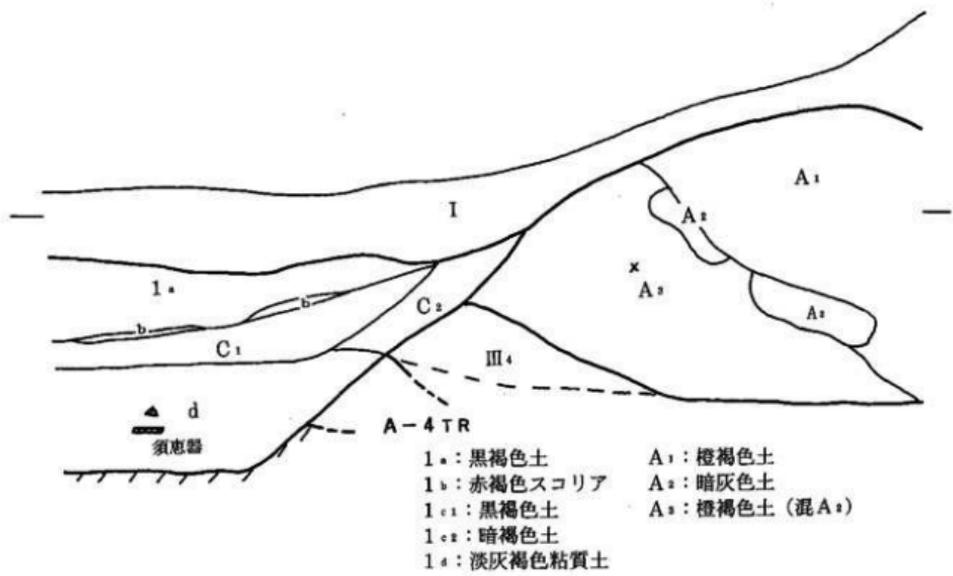


第2図 縄張図及びトレンチ配置図(S:1/2,500)



1 TR

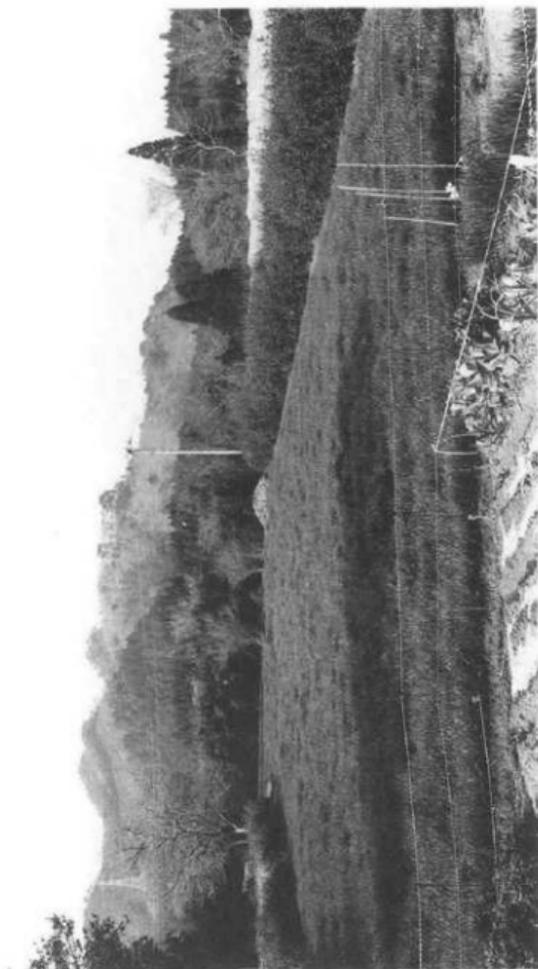
- I : 表土
- II : 橙褐色降下軽石層
- III : 橙褐色火山灰
- III₁ : 暗褐色土
- III₂ : 淡橙褐色土
- IV : 淡灰青色土



- 1_a : 黒褐色土
- 1_b : 赤褐色スコリア
- 1_c : 黒褐色土
- 1_c : 暗褐色土
- 1_d : 淡灰褐色粘質土
- A₁ : 橙褐色土
- A₂ : 暗灰色土
- A₃ : 橙褐色土 (混A₂)

第3図 層序図 (1/20)

図版 I



城の岡遺跡遠景（南側より）



現 況 (第2図A)



現 況 (第2図B)

1 トレンチ
調査状況
(西より)



1 トレンチ
層序





A-1 トレンチ調査状況
(北より)



A-2 トレンチ調査状況
(北より)



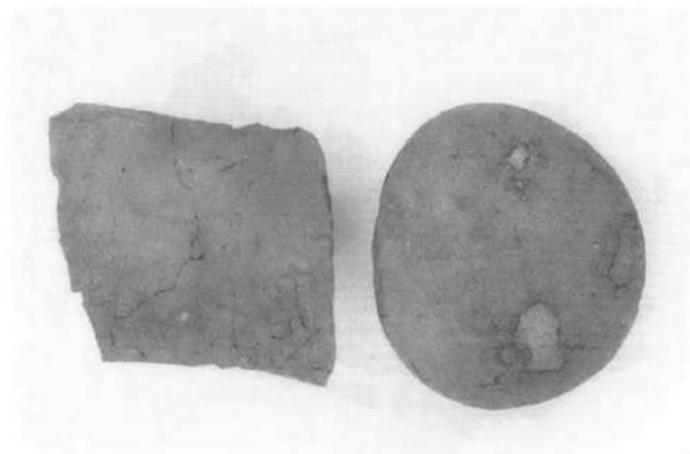
A地区 調査状況（南より）



A-1トレンチ 出土土師器



A-4 トレンチ 層序



A-4 トレンチ 出土遺物



A地区より「すかしの城」遠望



A地区より「木場城」遠望

報告書抄録

ふりがな	しろのおかいせき							
書名	城の岡遺跡							
副書名	町内遺跡試掘調査							
シリーズ名	高崎町文化財調査報告書第6集							
編著者名	山岸 薫							
編集機関	高崎町教育委員会							
所在地	〒889-45 宮崎県北諸県郡高崎町大字大牟田1150-1							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積 m ²	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
しろのおかいせき 城の岡遺跡	みやまけけん 宮崎県 きたもろかたぐんたかざきちやう 北諸県郡高崎町 おおいだまのち 大字江平451	45345	E-013	31度 54分 03秒	131度 05分 12秒	1995 0313 ～ 1995 0329	333	公園 計画 策定
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
城の岡遺跡	城館	中世	曲輪 堀	土師器 陶器				

高崎町文化財調査報告書

第 6 集

城 の 岡 遺 跡

発行年月日	平成7年3月31日
発 行	高崎町教育委員会
印 刷	長 崎 印 刷